

第2回公園墓地指定管理者選考委員会 議事録（要旨）

- I 開催日時 令和3年9月22日（水）14時～15時00分
- II 開催場所 横須賀市役所3号館3階 301会議室
- III 出席状況 委員5人
浦田委員長、島崎委員、鈴木委員、飯森委員、中村委員
事務局2人
環境政策部公園建設課 府馬主査、宇田川
- IV 公開・非公開の状況 公開（傍聴者 10名）
- V 会議次第
- 1 開会
 - 2 申請団体によるプレゼンテーション及び選考委員によるヒアリング
(1) 横須賀公園墓地管理グループ
 - 3 閉会
- VI 会議の成立
会議に先立ち、事務局から当選考委員会は委員5人全員が出席しており、指定管理者選考委員会等条例に規定された定足数を満たしており、会議は成立している旨、報告した。
- VII 会議の内容
応募団体によるプレゼンテーション（20分以内）及び選考委員からヒアリング（30分以内）を個別に行った。
- VIII ヒアリングの内容について
- 1 横須賀公園墓地管理グループ
 - 委員
 - ① 繁忙期の人員体制について、通常期は6名のところ12名に増員しているが、増員の方法について確認したい。
 - ② 雇用している従業員以外で、公園樹木管理者などの下請けや委託業者に対して、安全衛生的な面でどのような配慮を行っているか確認したい。
 - 応募団体
 - ① 繁忙期は渋滞緩和対策等の警備や案内業務に人員を割く必要があるため、事前に代表企業本社に対し、繁忙期の増員要求を行っている。なお、委託で賄えるも

のについては、委託発注を行う。

- ② 委託契約を行う段階で、委託先の保険加入状況等を把握。代表企業が造園業者であるため、安全衛生管理については社員へ毎年教育されている。委託業者に対しても、導入教育のところで安全衛生管理についてはしっかり説明を行っている。

■委員

- ① 繁忙期における西側臨時門の使用率が低いと感じる。市と協議を行って、使用率が上がるよう検討してほしい。また、西側臨時門の使用率の向上だけでなく、場内外の警備員の配置等について検討していただき、正門側の渋滞緩和に努めるようにしてほしい。
- ② 防災訓練についても、近年の情勢により地域で行えていないため、公園墓地でそういった活動ができるようになればと考えているがいかがか。

■応募団体

- ① 繁忙期における西側臨時門の使用率については、徐々に伸びてきているところだが、信号がない場所での右左折については、墓参者に高齢の方が多いために踏まえると正門からの進入よりハードルが少し高いのかもしれない。ゆえに、安全に利用していただけるよう検討したいと感じており、指定管理者の力だけでは難しい内容については、市と協議も行いたいと考えている。

正門側の渋滞についても、通りに面している花屋で墓参者が生花等を購入するため、渋滞が起りやすくなっているため、場内で生花販売を行えないか検討し、徐々に緩和する方向に変化できればと考えている。

- ② 防災訓練等についても、近年の状況から人を集めることに対し、様子見をしていたが、お子様にたくさん来ていただけるよう、地域に還元し、我々も地域の一員として皆さんと一緒に過ごすという気持ちでいるため、指定管理者として任せただけなら、コロナ情勢を踏まえての検討にはなるが、進めさせていただければと思う。

■委員

- ① 提案評価(8)の「園内維持管理及び施設・設備の保守管理・修繕」について、施設補修・修繕や改良対応に対しては、利用者の安全を最優先に考え、その緊急性や利用者、横須賀市からの要望を受けて優先順位をもって計画的に対応するとあるが、横須賀市では当該施設について、長期大規模改修計画として10年計画を持っており、この計画と整合を取った修繕計画を現場で行うことは可能か。
- ② ケヤキ並木の間引きについて、伐採計画を提案されており根の処理についてはそのまま残すと記載されているが、地際で切り株を残した際のその後について考えがあるか。
- ③ 園内の危険箇所について、ハザードマップを作製し、計画的な整備を実施していくと提案されているが、墓地内外の林縁部管理については、何年計画で実施する考えなのか。

■応募団体

- ① 修繕計画に関しては、市の修繕計画と整合を取って計画を行うことも可能であ

ると考えている。利用者の安心安全を最優先に考慮したうえで、対応していきたい。

- ② 根に関しては、現在、植栽帯の範囲を超えて、園路中央部まで根が張っている状況にあることから工事を要するため、市と協議なしに方針決定は行えないものと考えている。

台風等の荒天時に起こる枝の折損等への対策としての間引きを優先に考え、根の処理については市と協議のうえで検討していければと考えている。

また、処理だけではなく、残した切り株を活用できないかも考えている。

- ③ 林縁部についてはドローンを用いた調査から行う予定ですが、調査結果について、その年に起こる自然災害の状況により変化が起きるため、今回の指定管理機関で完了するとは考えていない。今後、10年、15年と継続した計画をもって、当グループが管理していければという思いで考えている。

■委員

- ① 繁忙期の渋滞緩和対策について、園内循環バスの運行を行うことや警備員を配置するなど、現行とあまり変化がある提案ではないように感じたが、墓地使用者の高齢化や免許返納等の車を使わない墓参者の増加に対する配慮や現行サービスの拡充について、考えているものはあるか。
- ② 市が課題として認識しているソフト面について、御社では墓地の利用者だけでなく、公園利用者という目線で、子供たちの環境学習等を計画提案されており、長期にわたる墓地運営を担う立場として、墓地という施設に子供の成長過程を重ねるのは良い試みだと感じているが、提案書には「実施の検討」という表現となっており、実施に対して少し弱い表現だと感じている。

ここについて、現時点での数値目標のようなものがあるのか、良い提案で期待しているので教えてほしい。

■応募団体

- ① 墓地利用者からは最寄り駅からバスを運行させてほしい、循環バスの運行日数を増加してほしいといった声は以前より受けているが、最寄り駅からの運行バス等については、指定管理者の一存で決められるものではないため、自治体と協力し、お客様の高齢化等に十分対応し、気持ちよく墓参していただけるような環境を随時提案していきたいと考えている。
- ② 昨年度から墓地利用者以外の近隣の方に資するようなソフト事業（自然観察や場内風景面の作画会等）を試験的に行っており、手応えも感じている。次期以降については、これを発展させていきたいと考えている。

墓地と公園、それぞれの利用者のバランスを取りながら、皆さまにご利用いただけるよう考えている。

■委員

業務マニュアルについて、オリジナルの部分について説明できるものはあるか。

■応募団体

業務マニュアルの主な内容は、各種申請手続きにきたお客様への対応をまとめた

もので、申請者の高齢化や場合によっては他の煩雑な手続きと同時進行で墓地の承継手続き等といった状況にある方もいるため、ケースバイケースで対応が必要となる。こういった状況を踏まえ、少しでも利用者にわかりやすい案内を行えるよう、見直しを行っている。

なお、日々様々な問い合わせや相談を受ける中で、マニュアルの更新を行っており、承継手続きに関するものは、月に1度更新を行っております。そういった日々の経験の積み重ねで出来上がったマニュアルゆえ、オリジナル度の高いマニュアルだと考えている。

■委員

リスクへの対応について、防災訓練等はどうのようなものを行うのか。現在行っている内容でも問題ないので教えてほしい。

■応募団体

様々な施設を管理している代表企業が、地震等の災害を想定した複数施設を連携させた防災訓練を社として行っている。

地域住民と連携した防災訓練については、近年の状況から行えていないが、継続的に行っているものとしては、代表企業が公園等施設利用者に防災意識を高めていただく「そなえパークの日」を毎年3月に設定し、防災イベントを開催している。近年の状況から内容については、変動している。

■委員

提案書類とは関係ないが、墓園内で芝生火災が発生することがあるとよく聞かすが、公園墓地において、芝火災が起きた事例はあるか？

また、芝生火災への対策は行っているか？

■応募団体

当園の管理に（回答者は）3年間従事しているが、1件も芝生の火災は起きたことがない。

しかしながら、十分注意はしており、巡回車両に貯水タンクを配備することや、線香等に火をつける場所を場内の火付けどころに限定するよう注意喚起を行うなど、留意している。

また、芝生についても刈りカスを残さないようにするなど、地道なところで火災に繋がっていないと感じている。

■委員

人員体制のところ、墓地管理士の有資格者を配置すると提案されているが、現地ではこういった専門性の高い人材は配置されるのか。

■応募団体

現地で配置するスタッフには土木系の有資格者がおり、来年度には、墓園トータルアドバイザーを配置し、アドバイスしていきながら、維持管理におけるソフト面とハード面の両方についてフォローしてもらう予定です。共同事業体の構成員である西武造園(株)もそうですし、福利園建設(株)も有資格者がいるため、そちらともしっかり連携

を取っており、そういう体制で維持管理していく。

■委員

ケヤキの間伐について、プレゼン時に説明された全体本数の 1/4 という本数は、結果として 1/4 となったのか、それとも全体本数から算出して出たものなのか考え方を教えてほしい。

■応募団体

現時点で、すべてのケヤキを詳しく診断して伐採するか否かの判断は行っていない。目視判定のレベルになってしまうが、樹冠の広がりや幹の状況を見て、1/4 ぐらいの頻度で間引くのが妥当であろうということになった。

■委員

墓地管理代行については、今回から提案したものか？

■応募団体

前回までの提案書にも書いており、横須賀市との協議は行っていたが、墓地という特性上、商行為がなじまないということで、実施に至っていなかった。当社が管理している他の公園では、先んじて実施しており、コロナ禍でいままで通りに墓参できないことや使用者の高齢化等を考え進めている状況にあるため、今回改めて提案させていただいた。

(以上)